

第一章

「世界一の都市・東京」を目指して

目指すべ

「世界一の都市」

将来像の実現に向け

基本目標 I：史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現

＊2020年の東京の姿、レガシーの継承

＊オリンピック・パラリンピック開催を起爆剤とした都市の発展

《基本目標 I》

「史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現」

1 成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功

政策指針：1～4

2 高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現

政策指針：5～6

3 日本人のこころと東京の魅力の発信

政策指針：7～8

政策の方向性を示す
8つの「都市戦略」

政策全体に共通する5つの視点

経済の活性化と生活の質の向上

先端技術の積極的な活用

ハードとソフトの融合

女性の活躍、高齢者の社会参加

官民の政策連携と規制緩和

ン（仮称）」の構成

き将来像

・東京」の実現

た2つの「基本目標」

基本目標Ⅱ：課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現

＊少子高齢・人口減少社会への対応をはじめ、山積する課題を解決

《基本目標Ⅱ》

「課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現」

4 安全・安心な都市の実現

政策指針：9～10

5 福祉先進都市の実現

政策指針：11～14

6 世界をリードするグローバル都市の実現

政策指針：15～19

7 豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現

政策指針：20～23

8 多摩・島しょの振興

政策指針：24～25

「東京都長期ビジョン（仮称）」のポイント

1 「東京都長期ビジョン（仮称）」の目指すべき将来像

「世界一の都市・東京」の実現

東京を、「ここで生まれ、生活し、老後を過ごすことができ、良かった」と思ってもらえる都市にする、ということであり、この実現に向けて、全ての都民が誇りと自信を取り戻し、明るい未来を展望できる社会を創造する。

具体的には、東京で暮らす人や訪れる人全てが、安心・快適な環境の中、上質なサービスを受けつつ文化やスポーツに親しみながら、充実した時間を過ごすことができるようにする。さらに、海外を含めた各都市との連携や交流を推進・強化し、都民生活の向上や他都市の発展に役立て、お互いが win-win となる関係を築いていく。

明るい未来を展望できる社会の創造にあたっては、富を絶えず生み出していくことが不可欠である。経済面で世界一を目指すとともに、様々な分野でロンドン・ニューヨーク・パリに勝り、世界のどこよりも上質な生活ができる都市を実現する。

2 将来像の実現に向けた2つの基本目標

「Ⅰ 史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現」

東京の持てる力を結集し、2020年大会を成功させるとともに、大会開催を起爆剤として、新たな技術の活用、都市基盤の充実、一層の国際化の推進など、成熟都市の更なる質的発展を成し遂げ、東京を、世界一の都市へと飛躍させる。

また、オリンピック・パラリンピック開催に向けた様々な活動をレガシーとして次世代に継承し、都民生活の向上につなげていく。

さらに、オリンピック・パラリンピックの機会を捉え、地方の魅力と東京に集まる富や知恵とを結び付け、相乗効果を発揮させることで、東京と地方が共に発展し、日本全体の活力を向上させていく。

「Ⅱ 課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現」

東京の人口は、2020年をピークに減少局面に転じることが予測されている。さらに2025年には65歳以上の高齢者人口が4人に1人となる一方、14歳以下の年少人口は1割を下回るなど、これまで経験したことの無い大きな転換点を迎えることとなり、この来るべき人口減少社会に備えた改革を加速させていく。

また、2020年大会に必要な大会施設や都市基盤の整備が終了した後も、景気が落ち込むことのないよう基盤整備を着実に進め、良質な社会資本ストックを次世代に継承していくことが重要である。

さらに、首都直下地震の脅威、激化する国際競争、大量のエネルギー消費による環境への影響など、東京が直面している多くの課題に対し、10年後の2024年はもとより、その先の中長期を見据えて山積する課題の解決に取り組んでいく。こうして、世界の大都市の手本となる持続的発展が可能な都市モデルを構築する。

3 政策全体に共通する5つの視点

「1 経済の活性化と生活の質の向上」

全ての都民が、本当の豊かさを実感できる社会の実現に向けて、経済を活性化して新しい富を生み出し、この富を有効に活用することにより、都民生活の質の向上を図っていく。

「2 ハードとソフトの融合」

生活の質の向上を実現するためには、施設を整備するだけにとどまらず、それを効果的に活用していくことが必要なことから、ハードとソフトが融合した政策を展開する。

「3 官民の政策連携と規制緩和」

東京に多く集積する民間事業者等と都が連携して課題の解決に取り組むなど、官民の政策連携を積極的に進めるとともに、民の力を最大限発揮できるよう、規制緩和を国に強く働きかけ、実現していく。

「4 先端技術の積極的な活用」

2020年大会をターゲットとした先端技術の積極的な活用など、先進性の高い政策を展開し、東京の更なる発展を後押しする。

「5 女性の活躍、高齢者の社会参加」

少子・高齢化による労働力人口減少への対応、新たな需要や価値の創造、といった観点に基づき、社会の活力の維持・向上を図るため、女性の活躍と高齢者の社会参加を促進する。

4 中間報告の位置付け、最終報告までの流れ

【中間報告について】

中間報告では以下の事項について示し、パブリックコメントを募集する。なお、タスクフォースなど機動的な検討体制を整え、必要に応じて様々な意見を聴取している重要課題等については、引き続き検討し、最終報告で政策目標を明らかにする。

* 東京の姿

オリンピック・パラリンピック開催時及びおおむね10年後における東京の姿を示す。

* 政策目標

政策の確実な推進を図るため、可能な限り数値化するとともに達成時期を明らかにした政策目標を示す。

政策目標は、都民・事業者・国等と力を合わせて達成を目指すものであり、社会や都民生活に及ぶ効果・状況と、都が推進する施策の具体的な到達状況を示す。

* 政策の方向性

将来像の実現に向けた政策の方向性を示す。

【最終報告について — 「東京都長期ビジョン（仮称）」策定— 】

都民からの意見等を十分に踏まえて具体的な政策展開等について検討し、平成26年12月末を目途に公表する。

〔最終報告で追加する事項〕

* 引き続き検討を行う重要課題等についての政策目標

* 具体的な政策展開と3か年の実施計画 <<課題解決に向けた工程表>>

8つの都市戦略と25の政策指針

基本目標 I

史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現

都市戦略1 成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功

(政策指針1) アスリートの活躍を支える万全な開催準備とレガシーの継承

(政策指針2) 美しく風格があり、誰もが安心して過ごせるバリアフリー環境の構築

(政策指針3) 世界に開かれた住みやすい国際都市の形成

(政策指針4) 世界に存在感を示すトップアスリートの育成とスポーツ都市東京の実現

都市戦略2 高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現

(政策指針5) 陸・海・空の広域的な交通・物流ネットワークの形成

(政策指針6) 誰もが円滑かつ快適に利用できる総合的な交通体系の構築

都市戦略3 日本人のこころと東京の魅力の発信

(政策指針7) 「おもてなしの心」で世界中から訪れる人々を歓迎する都市の実現

(政策指針8) 芸術文化都市を創造し、日本文化の魅力を世界に発信

基本目標Ⅱ

課題を解決し、将来にわたる東京の持続的発展の実現

都市戦略4 安全・安心な都市の実現

(政策指針9) 災害への備えにより被害を最小化する高度な防災都市の実現

(政策指針10) 日常に潜む危険や犯罪から都民生活を守り、安全・安心を確保

都市戦略5 福祉先進都市の実現

(政策指針11) 安心して産み育てられ、子供たちが健やかに成長できるまちの実現

(政策指針12) 高齢者が地域で安心して暮らせる社会の実現

(政策指針13) 質の高い医療が受けられ、生涯にわたり健康に暮らせる環境の実現

(政策指針14) 障害者が地域で安心して暮らせる社会の構築

都市戦略6 世界をリードするグローバル都市の実現

(政策指針15) 日本の成長を支える国際経済都市の創造

(政策指針16) 都心等の機能強化による東京の都市力の更なる向上

(政策指針17) 女性や若者、すべての人が活躍できる社会の実現

(政策指針18) 東京、そして日本を支える人材の育成

(政策指針19) 2020年大会の成功と東京の発展に寄与する都市外交の推進

都市戦略7 豊かな環境や充実したインフラを次世代に引き継ぐ都市の実現

(政策指針20) スマートエネルギー都市の創造

(政策指針21) 水や緑に囲まれ、環境と調和した都市の実現

(政策指針22) 都市インフラの安全性を高め、安心できる社会の確立

(政策指針23) 東京の再生を支える地域の創造

都市戦略8 多摩・島しょの振興

(政策指針24) 多摩・島しょ地域の発展・成熟したまちづくりに向けた環境整備の推進

(政策指針25) 多摩・島しょの豊かな自然を生かした地域の活性化